

山陽特殊製鋼株式会社
2019年度第3四半期決算説明会（電話カンファレンス）
主な質疑応答（要旨）

開催日 2020年2月3日（月）
説明者 取締役常務執行役員 高橋 幸三

Q. 同業他社の鋼材セグメントを見ると、数量が減少して損益は悪くはなっているが、御社の単独決算の減益幅が大きい。その理由を教えてください。御社は限界利益率の高い軸受鋼の比率が高いこと、同業他社は鋼材以外の分野がよかったことが理由と考えていいか。

A. 当社の減益は、数量減の影響が大きいと考えている。当社の主力製品である軸受鋼はサプライチェーンが長いので、在庫調整の影響を大きく受けたと考えている。もう一つは、限界利益の差もあると考えている。また、残念なことに、Ovako、MSSSが連結損益に未だ寄与しておらず、両社ののれん償却費を含めて大きく損益に影響したと考えている。

Q. このような状況が続くと、海外子会社の減損リスクが出てくるのではないか。

A. Ovakoは、今年度（2019年度）からの連結なので、すぐに減損の議論は出てこないと考えている。MSSSは2018年6月に子会社化しているが、赤字基調であり、来年度の2020年度にどうなるかが一つのポイント。ただ、MSSSにおいて販売数量は回復してきているので、営業損益の黒字化に向けて努力してまいりたい。

Q. 三社連携のシナジー効果、姫路工場のリフレッシュ工事が効果が発現するのはいつか。2019年度の設備投資の進捗が計画に対して遅いが、この第4四半期に残りは出てくるのか。

A. 三社連携のシナジーについては、コスト面は比較的早く効果が出てくると考えている。Ovakoの2020年度予算にも織り込みたい。営業面については、得意品種の入替は顧客の認証が必要なので、もう少し時間がかかると思う。設備投資は予定通りである。姫路工場のリフレッシュ工事は、設備の検収タイミングが1～2か月ずれることはあるが、予定通り進んでいる。

Q. 単体の数量が計画に対して下振れたが、どういう分野が下振れたのか。欧州（Ovako）、インド（MSSS）は、環境が改善基調とのことだが、どういう分野がよくなっているのか。

A. 日本では、ロボット、半導体の在庫調整は早めに始まった。紐付き分野、つまりベアリングメーカー向け、自動車メーカー向けで、足元在庫調整が大きくなっており、建機メーカー向けも在庫調整が入ってきている。欧州、インドは自動車向けが多いが、日本より先行してサプライチェーンの在庫調整が始まったので、その在庫調整が完了してきたと見ている。ただ、実需の回復はまだで、もう少し先になると考える。

Q. 需要環境は厳しいが、海外で、数量以外で、価格などの競争激化はないのか。

A. Ovakoは、今年度の販売価格について、今、交渉を行っている。Ovakoも紐付き分野の比率が高く、マーケットそのものの動きもあるが、長年にわたって信頼を築いてきた品質、デリバリーなど非価格競争力の貢献についても議論している。競争環境は厳しいが、大きく価格が下落することにはならないと考えている。

Q. 来年度の電極などの諸資材価格の見通しをどうみているか。

A. 電極価格は2018年度から大きく上昇したが、足元ではピークを打ったと見ている。ただ、価格が大きく高騰したので、下落局面になったとしても、来年度に高騰前のレベルまで戻るのは難しいと思う。他の諸資材についても同じ。従って、当社としては、自らできることとして、労務費、修繕費、経費などのコスト削減に取り組んでいくことが必要と考えている。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。